2022（令和４）年度 全国学力・学習状況調査

逗子市の結果について

（１）調査の目的

〇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図る

〇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる

〇以上のような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

（２）調査の対象

逗子市立小学校第６学年児童　353名

逗子市立中学校第３学年生徒　327名

（３）調査の内容

①教科に関する調査（国語，算数・数学・理科）

出題内容はそれぞれ次の（ア）と（イ）を一体的に出題。

（ア）身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

（イ）知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

②質問紙調査

〇学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施。

〇本年度の主な調査項目は以下のとおり。

- 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等
- 部活動に関する状況
- ICTを活用した学習状況
- 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況
- 学習に対する興味・関心や授業の理解度等
- 新型コロナウイルス感染症の影響

（４）調査の方式　　悉皆調査

（５）調査日時　　2022年（令和４年）４月19日（火）

（６）調査結果の分析にあたって留意したこと

本調査の結果から見てとれることとして、次のような点に留意して分析を行った。

①実施教科が「国語」「算数・数学」「理科」の３教科であり、学習指導要領のすべてを網羅するものではないことから、児童生徒が身につけるべき学力の特定一部であること。

②年度により問題の質が異なるため、経年変化の状況のみから学力の向上・低下の傾向を容易に評価することは難しいこと。

（７）調査結果(正答率)

(小学校)

教　科	逗子市正答率	神奈川県正答率	全国正答率
国　語	67%	65%	65.6%
算　数	66%	64%	63.2%
理　科	62%	63%	63.3%

(中学校)

教　科	逗子市正答率	神奈川県正答率	全国正答率
国　語	69%	69%	69%
数　学	54%	53%	51.4%
理　科	50%	50%	49.3%

令和４年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（小学国語）

逗子市教育委員会

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等　●課題や改善点等）

結果の概要	全体の正答率は67％と、神奈川県を２ポイント、全国を1.4ポイント上回る結果となった。領域ごとに見ていくと「C　読むこと」の問題の正答率が、全国を4.7ポイント上回っていた。また、「問題形式」では、選択式は３％上回っていた。
言葉の特徴や使い方に関する事項	○話し言葉と書き言葉との違いを理解する問題では全国正答率を2.9ポイント上回っている。【１一】 ●学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う問題３問で正答率がいずれも60％程度で、全国正答率を下回っている。特に「したしむ」を書く問題では全国正答率を6.2ポイント下回り、無回答率が全国を12.2ポイントも上回っている。【３三アイウ】
話すこと・聞くこと	○必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心捉える問題では、正答率が90％で、全国正答率を1.7ポイント上回っている。【１三】 ●互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる問題では、正答率が50％下回り、全国正答率を1.8ポイント下回った。【１四】
書くこと	●文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける問題では、正答率が40％を下回り、無解答率が全国よりも2.5ポイント上回っている。【３二】
読むこと	○この領域の問題４問の正答率は、60～70％程度で全国を上回るか同等であった。特に、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える問題では、全国を6.5ポイント上回った。【２一（１）（２）、２二、２三】
児童質問紙 国語に関連する質問 問43～51	「国語の勉強は好きですか」の質問に、61.3％の児童が肯定的に答えている。 「国語の授業の内容はよく分かりますか」の質問には、85.3％の児童が肯定的に答えている。 「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに」の質問には、90.7％の児童が肯定的に答えている。

令和４年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての逗子市としての取り組み

逗子市教育委員会

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて逗子市として取り組むこと（国語）

概要

知識、技能に関しては全国平均を多少ではあるが下回っている。問中でも、漢字を文中で正しく使うことに関して、特に下回っている傾向にある。文章全体の構成に着目して文章を整えたり，相手の読みやすさを考えて漢字を正しく書いたり、行の中心に注意して書くために、他者との関わりの中で語彙を増やしたり適切な言語を使ったり、文を読みあったり、何度も校正したりする活動に取り組む必要がある。

また、読むことに関しては、全国平均を4.7％上回っている。複数の叙述を基に，登場人物の気持ちや相互関係を捉え，物語全体から伝わってくることを考えられるようになるには、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり，表現の効果を考えたりする指導を、1学年から積み重ねていくことが今後も継続して必要となる。

【言葉の特徴や使い方に関する事項】

話合いを通して，言葉には相手とのつながりをつくる働きがあることや，話し言葉では誤解されやすい同音異義語を避けるとよいことに気付くことができるように指導することが重要である。

【話すこと・聞くこと】

必要なことを記録したり質問したりしながら聞き，話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え，自分の考えをもつことは得意とするが、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い，考えを広げたりまとめたりすることを苦手としていることが窺える。聞く姿勢が整っていることは大いに大切であるが、解決方法をまとめる力も必要になる。

【書くこと】

文章全体の構成や展開が明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けることに課題がある。自分の文章のよいところを見付けるためには，文章全体の構成や展開が明確になっているかなどの観点から，具体的に感想や意見を伝え合うことが大切である。

【読むこと】

登場人物の行動や気持ちなどについて，叙述を基に捉えることや登場人物の相互関係や心情などについて，描写を基に捉えることに関しては、７％程度上回っている。読書や日々の他社との関わりの中から相手の気持ちを考えたり、察したりする力を引き続き養っていくことが重要である。

令和４年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（中学国語）

逗子市教育委員会

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等　●課題や改善点等）

結果の概要	全体の平均正答率は 69%であり、全国、神奈川県の平均正答率と比較して全く同じポイントとなった 学習指導要領の内容の中では、話すこと・聞くとについての全国平均正答率が上回っている。しかし、書くことに関しては全国平均正答率よりも下回った。
話すこと 聞くこと	○自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す問題では、全国正答率を 7.3%上回った。【１三】 ●聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫する問題では、全国正答率を 7.6%下回った。【１一】
書くこと	●自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く問題では、正答率が 45%を下回り、全国より 3.2%下回った。【２三】
読むこと	○場面と場面，場面と描写などを結び付けて内容を解釈する問題では、正答率が 70%を上回り、全国とも同等であった。【３四】
我が国の言語文化に関する事項	○この領域の行書に関する問題３問いずれも、全国正答率と同等であった。特に、漢字の行書の読みやすい書き方について理解する問題では、正答率が 90%を上回った。【４一二三】
生徒質問紙 国語に関連する質問 問 43～51	○「国語の勉強は好きですか」という問いに対しては、あてはまる・どちらかといえば当てはまるにかいとうした割合を合わせると 66.8%と、全国の数値を 4.9%上回った。 ●「国語の勉強は大切だと思いますが」という問いに対しては、少しだけ下回った。 上記の二点の他にも、「国語の授業の内容はよくわかりますか」の問いにあてはまる生徒の割合は高く、「将来、役立つと思いますか？」の問いにあてはまる生徒の割合が低いことからも、国語が好きで楽しいと感じるが、どう役立つかに疑問を感じている生徒が多い事は課題であると考えられる。

令和４年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての逗子市としての取り組み

逗子市教育委員会

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて逗子市として取り組むこと（国語）

概要

話すこと・聞くことについて、論理の展開などに注意して聞き，話し手の考えと比較しながら，自分の考えをまとめることや相手の反応を踏まえながら，自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することは、問題ごとの正答率が全国正答率より 5～7%前後上回り、得意とする傾向にある。しかし、相手の反応を踏まえながら，自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することに課題がある。

書くことについて、根拠を明確にしながら，自分の考えが伝わる文章になるように工夫することに課題がある。

読むことについて、場面の展開や登場人物の相互関係，心情の変化などについて，描写を基に捉えることはできているが、目的に応じて必要な情報に着目して要約したり，場面と場面，場面と描写などを結び付けたりして，内容を解釈することに課題がある。

「国語の勉強は好きですか」という質問に対し、あてはまると回答した生徒が全国回答を3.8%上回っている。

【話すこと、聞くこと】

相手があるから話したり聞いたりする活動が成立することを改めて理解し、場の状況や聞き手の興味・関心，情報量などを考慮しながら，聞き手に応じた語句を選択したり，話す速度や音量，言葉の調子や間の取り方，言葉遣いなどに注意したりして話すことが大切である。また，聞き手のうなずきや表情にも注意し，話の受け止め方理解の状況を捉え，聞き手に自分の考えが十分伝わっていないと感じられたときには，分かりやすい語句に言い換えたり内容を補足したりすることも重要である。

【書くこと】

根拠を明確にするためには，まず，自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確かめることが必要である。その上で，自分の思いや考えを繰り返すだけではなく，根拠を文章の中に記述する必要があることを理解して書くことが重要である。

【読むこと】

文学的な文章を読み味わう際には，個々の場面や描写から直接分かることを把握するだけでなく，複数の場面を相互に結び付けたり，各場面と登場人物の心情や行動，情景等の描写とを結び付けたりすることによって，場面や描写に新たな意味付けを行うことが重要である

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

文字を正しく整えて速く書くことができるようにするとともに，小学校と同様に，書写の学習で身に付けた資質・能力を，各教科等の学習や生活の様々な場面で積極的に生かす態度を育成する必要がある。

令和４年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（算数）

逗子市教育委員会

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等　●課題や改善点等）

結果の概要	本市の平均正答率は66%であり、全国、神奈川県の平均正答率を上回る結果であった。学習指導要領の領域全てにおいても、全国、神奈川の平均正答率を上回る結果であった。 評価の観点においても、知識・技能、思考・判断・表現ともに全国、神奈川の平均正答率を上回る結果であったが、知識・技能に比べ、思考・判断・表現は、全国、神奈川の傾向と同じく平均正答率が下がることに課題が見られる。 問題別集計結果を見ると、全ての問題において無回答率が全国、神奈川の平均値を下回る結果となった。無回答率が0%台の問題が４問あり、中でも問題１（１）などは0.0%であるなど、問題に粘り強く取り組む姿があったことを見取ることができる。
（算数） 数と計算	○二つの数の最小公倍数を求めることができる。(78.2%)【１（２)】 ○加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答えを記述できる。(71.4%)【３（４)】 ●示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる。(72.0%)【１（３)】正答率は神奈川県平均をわずかに上回ったが、全国平均を下回った。式の意味を整理し、順序立てて記述式で説明することに課題がある。一方で、無回答率が4.2%と全国平均より下回ったことは評価できる。
（算数） 図　　形	○図形を構成する要素に着目して，ひし形の意味や性質，構成の仕方について理解している。(71.4%)【４（３)】 ○示された作図の手順を基に，図形を構成する要素に着目し，平行四辺形であることを判断できる。(62.9%)【４（４)】 ●該当なし
（算数） 変化と関係	○「変化と関係」の領域の問題全てで全国平均正答率を３%以上上回った。 ○百分率で表された割合を分数で表すことができる。(79.9%)【２（１)】 ○百分率で表された割合と基準量から，比較量を求めることができる。(73.1%)【２（２)】 ○示された場面のように，数量が変わっても割合は変わらないことを理解している（26.1%)【２（３)】 ○伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて，未知の数量の求め方と答えを記述できる（51.0%)【２（４)】 ●該当なし
（算数） データの活用	○分類整理されたデータを基に，目的に応じてデータの特徴を捉え考察できる。（69.7%)【３（２)】 ●該当なし

児童質問紙 算数に関する質問 問 53～60	○「算数の勉強は大切だと思いますか」の問いに 95.4%の児童が、「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思うか」の問いに 93%の児童が、それぞれ肯定的に回答しており、多くの児童が、算数が社会の中で有用なものであると感じていることが分かる。 ○「算数の問題の解き方が分からないときは，あきらめずにいろいろな方法を考えますか」の問いに 82.5%の児童が、「算数の授業で問題を解くとき，もっと簡単に解く方法がないか考えますか」の問いに 79.1%の児童が肯定的に回答している。答えを導き出すプロセスも意識しながら、粘り強く学習に取り組んでいることが分かる。

令和４年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての逗子市としての取り組み

逗子市教育委員会

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて逗子市として取り組むこと(算数)

基礎的な知識・技能の問題についての正答率は72.2%であり全国平均より４%高い。このことから、知識・技能の習得が概ねできていることが分かる。思考力・判断力・表現力の問題については、全国平均をわずかに上回るものの正答率は58.5%と知識・技能の問題より低い正答率となった。また、今回の調査では「果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの果汁の割合について正しいものを選ぶ」【２（３）】の問題の正答率が26.1%と最も低かった。児童にとって身近にある飲み物の問題だが、果汁の割合について誤って理解している児童が多いことが分かる。

思考力・判断力・表現力を育成するために、身に付けた知識・技能を活用して、自分の考えを論理的に順を追って説明したり、記述したりする学習を心がける。また、その際には、生活場面における事象と算数の内容を関連付けて考えたり、学習したことを用いて自分の考えを表現したりするなど、主体的に学習に取り組める課題や場の設定及びそのための支援について工夫することに取り組む。

【数と計算】

＊計算に関して成り立つ性質を見いだし、表現することができるようにする指導を充実させるためには、適用する数の範囲を広げていきながら統合的・発展的に考え、共通点に着目させ、ほかの数でも成り立つかどうか確かめることができるようにすることが大切である。また、見いだした性質について、その意味を考え、どの数でも当てはまるようにまとめるよう問い返すなど、一般的に表現しようとする態度を育てる。

【図形】

＊図形の学習においては、図形についての見方や感覚を豊かにすることが大切である。単なる知識として図形の性質を指導するだけでなく、具体物を操作しながら図形を構成したり分解したりする活動を通して、図形の性質や構成要素に着目して考察し、基本的な平面図形について理解できるようにする。

【変化と関係】

＊伴って変わる二つの数量の間の関係を、言葉、図、数、表、式、グラフなどを用いて表し、変化の様子や対応の規則性を読み取ることができるようにすることが大切である。また、日常生活の中で、伴って変わる二つの数量関係が成り立つ場面を課題に設定するなど、日常生活での問題解決に生かす活動を取り入れる。

【データの活用】

＊日常生活において、目的に応じて、必要な資料を収集し、グラフから資料の特徴や傾向を読み取ることができるようにするとともに、複数の資料の特徴や傾向を関連付け、一つの資料からは判断することができない事柄についても判断することができるようにすることが大切である。また、統計的な問題解決活動を行う場面を設定し、その結論をレポートやポスターなどにまとめて発表する活動を通して、表現力を伸ばすことも重要である。

令和４年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（数学）

逗子市教育委員会

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等　●課題や改善点等）

結果の概要	本市の平均正答率は 54%であり、全国、神奈川県の平均正答率を上回る結果であった。学習指導要領の３領域においても、全国、神奈川の平均正答率を上回る結果であった。 評価の観点においても、知識・技能、思考・判断・表現ともに全国、神奈川の平均正答率を上回る結果であったが、知識・技能に比べ、思考・判断・表現は、全国、神奈川の傾向と同じく平均正答率が下がることに課題が見られる。
(数学) 数と式	○該当なし ●目的に応じて式を変形したり，その意味を読み取ったりして，事柄が成り立つ理由を説明することができる。(44.0%)【６（２)】正答率は全国、神奈川の平均正答率を下回った。式の意味を整理し、式が正しいことを論理的に記述式で証明することに課題がある。
(数学) 図　　形	○証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している。(80.1%)【９（１)】 ○筋道を立てて考え，事柄が成り立つ理由を説明することができる。(16.2%)【９（２)】 ●該当なし
(数学) 関　　数	○「関数」の領域の問題全てで全国平均正答率を３%以上上回った。 ○一次関数の変化の割合の意味を理解している。(45.9%)【４】 ○与えられた表やグラフから，必要な情報を適切に読み取ることができる。(58.7%)【８（１)】 ○事象を数学的に解釈し，問題解決の方法を数学的に説明することができる。(43.1%)【８（２)】 ●該当なし
(数学) データの活用	○データの傾向を的確に捉え，判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。(54.1%)【７（１)】 ●該当なし
生徒質問紙 算数に関する質問 問 53～60	○「数学の勉強は大切だと思いますか」の問いに 80.6%の生徒が、「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の問いに 68.9%の生徒が、それぞれ肯定的に答え、多くの生徒が、数学が社会で有用なものであると感じていることが分かる。 ○「数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか」の問いに 79.7%の生徒が、「数学の問題の解き方が分からないときは，あきらめずにいろいろな方法を考えますか」の問いに 76.9%の生徒が、それぞれ肯定的に回答しており、多くの生徒が数学の課題に対して、その意味を理解し、解き方や考え方の過程を大切にしながら取り組んでいることが分かる。

令和４年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての逗子市としての取り組み

逗子市教育委員会

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて逗子市として取り組むこと(数学)

基礎的な知識・技能の問題についての正答率は62.5%であり全国平均より2.6%高い。このことから、知識・技能の習得が概ねできていることが分かる。一方で、「４２を素因数分解する」【１】の問題の正答率が50.5%、無回答率も13.8%と高くなっており、基礎的な知識・技能の習得ができていない生徒も一定数いることも分かる。

思考力・判断力・表現力の問題については、全国平均を2.9%上回るものの正答率は39.1%と知識・技能の問題より低い正答率となった。

今回の調査では「∠ＡＢＥと∠ＣＢＦの和が３０°になる理由を示し，∠ＥＢＦの大きさがいつでも６０°になることの説明を完成する」【９（２）】の問題の正答率が16.2%と最も低かった。筋道を立てて考え，事柄が成り立つ理由を説明することを苦手としている。

基礎的な知識・技能の習得を図るとともに、習得した知識を活用して問題を解決したり、事柄や事実から問題を見いだしたりする学習をより一層充実させ、思考力・判断力・表現力を育成する必要がある。そのためには、様々な事象を数学的に捉える、数学的に表現・処理する、解決過程を振り返り得られた結果の意味を考察するなどの活動を通して、数学を活用して事象を論理的に考察する力を養うように取り組む。

【数と式】

＊文字を用いた式の中の文字のもつ意味について理解を図るために、文字にいろいろな数を代入することで変化する式の値の様子から式の意味を考察するなど、具体的な数を用いて表現し、文字のもつ意味について考える。

＊事柄が一般的に成り立つ理由を、筋道を立てて説明できるようにするために、成り立つと予想した事柄について、文字式や言葉を用いて解決するための見通しをもち、その見通しを基に根拠を明らかにして説明する活動を充実させる。

【図形】

＊図形の学習においては、実際に図に表したり、作図したりするだけでなく、論理的に考察するとともに、考察したことについて筋道立てて説明することが大切である。また、その際には、自分が納得できるとともに他人を説得できると実感できるよう、生徒が見いだしたことや工夫したことなどを、数学的な表現を用いて論理的に説明し伝え合う活動を充実させる。

【関数】

＊様々な問題を数学的に活用して解決できるようにするために、問題解決の方法に焦点を当て、「用いるもの」と「用い方」を明確にして問題解決の方法を説明する活動を充実させることが大切である。その際に、問題解決のために表した表、式、グラフをどのように用いればよいか説明し合う場面を設定し、検討する活動を充実させる。

＊日常生活や社会の事象などの具体的な場面に関数を活用することができるよう、関数を用いて具体的な事象を捉え考察するとともに、その考察の過程や結果を表、式、グラフを用いて説明する活動を充実させる。

【データの活用】

＊代表値を求めたりデータの分布の様子を読み取ったりする場面を設定し、その傾向を捉えて、データに基づいた判断や主張を批判的に考察することを通して、よりよい解決や結論を見いだすことができるようにする。

＊日常生活や社会における不確定な事象に関する問題に対して、目的に応じてデータを収集し、ヒストグラムなどに整理し、そのデータの傾向を読み取り、それに基づいて判断し統計的に問題解決する活動を充実させる。

令和４年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（小学理科）

逗子市教育委員会

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等　●課題や改善点等）

結果の概要	全体の平均正答率は63.3%であり、県及び全国平均と比較し同程度のポイントであった。 しなしながら学習指導要領の区分・領域のうちＡ区分の『「粒子」を柱とする領域』のみ県及び全国平均を３％以上下回った。
「エネルギー」を柱とする領域	○問題に対するまとめを導きだすことができるように，実験の過程や得られた結果を適切に記録しているかを出題の趣旨とする問題では、全国平均を3.2%上回る結果であった【３（２）】 ●実験で得た結果を，問題の視点で分析して，解釈し，自分の考えをもち，その内容を記述できるかを出題の趣旨とする問題では、全国平均を3.7%下回る結果であった。【３（４）】
「粒子」を柱とする領域	○自分で発想した予想と，実験の結果を基に，問題に対するまとめを検討して、改善し，自分の考えをもつことができるかを出題の趣旨とする問題では、全国平均を6.6%上回る結果であった。【２（３)】 ●メスシリンダーという器具を理解しているかを出題の趣旨とする問題では、全国平均を23.0%下回る結果であった。【２（１)】 ●メスシリンダーの正しい扱い方を身に付けているかを出題の趣旨とする問題では、全国平均を3.1%下回る結果であった。【２（２)】 ●自然の事物・現象から得た情報を，他者の気付きの視点で分析して，解釈し，自分の考えをもち，その内容を記述できるかを出題の趣旨とする問題では、全国平均を7.9%下回る結果であった。【２（４)】
「生命」を柱とする領域	○全５問のうち問題形式が選択式のものは全国平均を上回った。【１（１、３、４、５)】 ●全５問のうち問題形式が記述式のものは県及び全国平均を下回った【１（２)】
「地球」を柱とする領域	○全５問すべての問題で全国平均と同じもしくは上回る結果であった。【３（３)、４（１、２、３、４)】
児童質問紙 理科に関連する質問 問61～69	△「理科の授業で，観察や実験の結果から，どのようなことが分かったのか考えていますか」の問いに対して「当てはまる」と回答した児童の割合が49.7%で県及び全国平均を上回ったが、「当てはまらない」と回答した児童の割合5.4%も県及び全国平均を上回る結果であった。 ●「理科の勉強は好きですか」の問いに対して「当てはまる」と回答した児童の割合が45.2%で県及び全国平均を下回り、「当てはまらない」と回答した児童の割合が９％であり、県及び全国平均を上回る結果であった。 ●「理科の授業で学習したことは，将来，社会に出たときに役に立つと思いますか」の問いに対して「当てはまる」と回答した児童の割合が37.6%で県及び全国平均を下回り、「当てはまらない」と回答した児童の割合が7.3%であり、県及び全国平均を上回る結果であった。

令和４年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての逗子市としての取り組み

逗子市教育委員会

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて逗子市として取り組むこと(理科)

調査結果を評価の観点で見てみると「思考・判断・表現」は県及び全国平均と同程度であるが、「知識・技能」が県及び全国平均を下回っており課題がみられる。観察、実験などに関する技能については、器具や機器などを目的に応じて工夫して扱うとともに、観察、実験の過程やそこから得られた結果を適切に記録することが求められる。

【「エネルギー」を柱とする領域】

観察、実験などで得た結果について分析して、解釈し、より妥当な考えをつくりだすことができるようにするためには、結果を事実として分析して、解釈し、それを結論の根拠として表現できるようにすることが重要である。指導に当たっては、結果の具体的な数値や、それを分析した内容などを根拠として表現する場面を設定することが大切である。

【「粒子」を柱とする領域】

自然の事物・現象に働きかけて得た事実について、自分や他者の気付きを基に分析して、解釈し、問題を見いだすことができるようにするためには、事実を比較し、差異点や共通点を捉えることができるようにすることが重要である。指導に当たっては、自然の事物・現象に働きかけて得た事実について話し合う中で、自分や他者の気付きを捉え、主に差異点や共通点を基に、問題を見いだす場面を設定することが大切である。

指導にあたっては、例えば、多くの器具の中で、50mLの水を正確にはかり取るという目的に合うメスシリンダーを選択するために、その役割や目盛りの読み方を確認した上で、はかり取りたい水の量より少ない水の量を最初に入れる理由や、足りない分の水を入れる際、スポイトの先が水の中に入らないようにする理由について話し合い、確かめ合う学習活動が考えられる。

【「生命」を柱とする領域】

結果や自他の考えを基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、より妥当な考えをつくりだすことができるようにするためには、比較したり、多面的に考えたりしながら、考察できるようにすることが重要である。指導に当たっては、例えば、結果を基に結論を導出する際、記録の整理の仕方を工夫し、互いの結果を比較する中で、他者の考えを受け、様々な視点から自分の考えの妥当性を検討する学習活動が考えられる。

【「地球」を柱とする領域】

観察、実験などで得た結果について分析して、解釈し、より妥当な考えをつくりだすことができるようにするためには、結果を事実として分析して、解釈し、それを結論の根拠として表現できるようにすることが重要である。

指導に当たっては、結果の具体的な数値や、それを分析した内容などを根拠として表現する場面を設定することが大切である。例えば、問題に対するまとめを行う際に、結果を具体的な数値として学級内で共有し、何を結論の根拠としているのかを明らかにし、より妥当な考えをつくりだす学習活動が考えられる。

令和４年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（中学理科）

逗子市教育委員会

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等　●課題や改善点等）

結果の概要	全体の平均正答率は 50.0％であり、県及び全国平均と比較し同程度のポイントであった。 学習指導要領の領域、評価の観点及び問題形式いずれも県及び全国平均と比較し同程度のポイントであった。
「エネルギー」を柱とする領域	●考察の妥当性を高めるために、測定値の増やし方について、測定する範囲と刻み幅の視点から実験の計画を検討して改善できるかどうかをみる問題では、全国平均を3.4％下回る結果であった【５（３）】
「粒子」を柱とする領域	○化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことができるかどうかをみる問題では、全国平均を 3.9％上回る結果であった。【２（３)】 ○実験の結果が考察の根拠として十分かどうか検討し、必要な実験を指摘して、実験の計画を改善できるかどうかをみる問題では、全国平均を 4.0％上回る結果であった。【７（２)】
「生命」を柱とする領域	○予想や仮説と異なる結果が出る場合について、結果の意味を考え、観察、実験の操作や条件の制御などの探究の方法について検討し、探究の過程の見通しをもつことができるかどうかをみる問題では、全国平均を 5.9％上回る結果であった。【８（２)】
「地球」を柱とする領域	○飛行機雲の残り方を科学的に探究する学習場面において、地上の観測データを用いて考察を行った他者の考えについて、多面的、総合的に検討して改善できるかどうかをみる問題では、全国平均を 4.7％上回る結果であった。【２（３)】 ○過去の大地の変動について、垂直方向の移動だけで推論した他者の考察を、水平方向の移動も踏まえて、検討して改善できるかどうかをみる問題では、全国平均を 6.2％上回る結果であった。【６（２)】 ○地層の広がり方について、時間的・空間的な見方を働かせながら、ルートマップと露頭のスケッチを関連付け、地層の傾きを分析して解釈できるかどうかをみる問題では、全国平均を 5.4％上回る結果であった。【６（３)】 ●継続的に記録した空の様子を撮影した画像と百葉箱の観測データを天気図に関連付けて、天気の変化を分析して解釈できるかどうかをみる問題では、全国平均を 3.3％下回る結果であった。【２（２)】 ●玄武岩の露頭で化石が観察できるかを問うことで、岩石に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる問題では、全国平均を 3.6％下回る結果であった。【６（１)】
児童質問紙 理科に関連する質問 問 61～問 69	△「理科の授業で学習したことを，普段の生活の中で活用できないか考えますか」の問いに対して「当てはまる」と回答した児童の割合が 24.6％で県及び全国平均を上回ったが、「当てはまらない」と回答した児童の割合 16.9％も県及び全国平均を上回る結果であった。 ●「理科の勉強は大切だと思いますか」の問いに対して「当てはまる」と回答

	した児童の割合が 31.7%で県及び全国平均を下回り、「当てはまらない」と回答した児童の割合が 6.5%で、県及び全国平均を上回る結果であった。 ●「理科の授業では，自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか」の問いに対して「当てはまる」と回答した児童の割合が 18.2%で県及び全国平均を下回り、「当てはまらない」と回答した児童の割合が 12.0%で、県及び全国平均を上回る結果であった。 ●「理科の授業で，観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか」の問いに対して「当てはまる」と回答した児童の割合が 22.2%で県及び全国平均を下回り、「当てはまらない」と回答した児童の割合が 11.7%で、県及び全国平均を上回る結果であった。

令和４年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての逗子市としての取り組み

逗子市教育委員会

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて逗子市として取り組むこと

調査結果の「学習指導要領の領域」、「評価の観点」及び「問題形式」いずれも県及び全国平均と比較し同程度のポイントであったが、問題別にみてみると県及び全国平均を下回っている問題が複数見られることから更なる指導の工夫改善が求められる。

【「エネルギー」を柱とする領域】

考察の妥当性を高めるために、測定値の増やし方について、測定する間隔（刻み幅）や範囲に着目して実験の計画を検討して改善することに課題があり、指導の充実が求められる。

身近な物理現象を科学的に探究する上で、考察の妥当性を高めるために、実験結果の処理について振り返り、実験の計画を検討して改善することは大切である。指導に当たっては、測定値の不足から妥当性の高い考察が行えない場合、測定する間隔や範囲などの改善点を明確にし、それらを基に実験の計画を検討して改善する学習場面を設定することが考えられる。

【「粒子」を柱とする領域】

粒子の保存性に着目して化学変化に関わる水の質量が変化しないことを、分析して解釈することはおおむねできている。

身近な現象を科学的に探究する上で、化学変化と「エネルギー」を柱とする領域の知識及び技能を関連付け、分析して解釈することは大切である。指導に当たっては、水の電気分解や水素の燃焼などの化学変化には、電気、熱、光など「エネルギー」を柱とする領域が関連していることに気付くようにすることが考えられる。その際、化学変化を起こすきっかけとなるエネルギーの形態だけでなく、それらが生み出される過程について触れることも重要である。

【「生命」を柱とする領域】

身近な動物の外部形態の観察を行い、その観察記録などに基づいて、共通点や相違点があることを見いだして、動物の体の基本的なつくりを理解することが大切である。その際、動物の外部形態を、生活場所や移動の仕方などと関連付けて分析して解釈することが考えられる。

指導に当たっては、いろいろな動物の外部形態を観察して見いだした特徴を、共通点と相違点に着目して生活場所や移動の仕方などと関連付けて考察し、表現する学習場面を設定することが考えられる。

【「地球」を柱とする領域】

自然の事物・現象を科学的に探究する上で、自分や他者の考察について根拠が妥当か、多面的、総合的に検討して改善することが大切である。

指導に当たっては、本問のように、他者の考察の根拠としている観測データの種類や科学的に探究する方法が妥当か検討する学習場面を設定することが考えられる。その際、用いた観測データが自然の事物・現象と対応しているか、観測データの読み取りが適切であるかなどの視点を明示することが重要である。

令和４年度全国学力・学習状況調査の結果分析（児童質問紙）

逗子市教育委員会

特徴的なことや課題と考えられること等

○自然の中で遊ぶことや自然観察をすることありますかという質問に「よくある」「ときどきある」と回答している児童の割合は 77.7%で、全国、神奈川県の割合より高くなっている。
逗子市の海と緑豊かな自然と生活が融合した環境を味わい、日頃から身近に感じ、親しんでいることがわかる。

○地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることが「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合は 58.2%で、全国、神奈川県の割合より高い。
自然を身近に感じつつも、地域が抱える課題について、意識を持つことについては、今後もアプローチが必要だと考える。

●自分にはよいところがあると思いますかという質問に「当てはまらない」「どちらかといえば、当てはまらない」と回答した児童の割合は 21.5%となっている。

●将来の夢や目標を持っていますかという質問に「当てはまらない」「どちらかといえば当てはまらない」と回答している児童の割合は、22.9%となっている。

令和４年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての学校としての取組

逗子市教育委員会

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて学校として取り組むこと

○キャリア教育、環境教育、防災・減災教育など様々な視点から、地域の特性を活かした学習活動に取り組み、より一層、逗子の自然や地域に触れる機会をつくる。

○逗子の自然や良さに触れることで見えてくる、地域の課題を自分事としてとらえ、その解決に向けて自分にできることを考え、実践できるよう取り組む。

○地域で働く人との関わりを持ち、自分の生活とのつながりについて考えることで、課題意識を養う。

○学校がすべての児童・生徒にとって、安全・安心できる場となるために、逗子市立学校において推進している支援教育の充実を目指し、一次支援（いじめ・不登校などの未然防止の取り組み）について、学級における「授業の工夫」「援助的な学級集団づくり」など、より丁寧に行う。

○日常の学習に加え、学校行事や児童会活動など、学級・学年だけでなく、異学年集団での活動により、児童一人ひとりが主体的に取り組むことができる。そのような経験を通して、他者から認められ、他者の役に立っているという「自己有用感」を感じられるよう、各活動の充実を図る。

令和４年度全国学力・学習状況調査の結果分析（生徒質問紙）

逗子市教育委員会

特徴的なことや課題と考えられること等

○自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますかという質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合は 80.6％で、全国、県全体と比べて高かった。対話的な学びや協働した学習活動を通して、相手の意見の利点を捉えたり、課題を達成したりするためにより良い考えを選択することや自分の考えを今一度整理し、向き合うことができていると考えられる。

○2 年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたかという質問に「ほぼ毎日」「週 3 回以上」と回答した生徒の割合は 84％で、全国、県全体より高かった。端末を使用した調べ学習や自分の考えをまとめるなどの活用が進められている。

○家で学校からの課題でわからないことがあったとき、どのようにしていますかという質問に「自分で調べる」に次いで「友達に聞く」と回答した生徒の割合が高かった。

令和４年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての学校としての取組

逗子市教育委員会

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて取り組むこと

○GIGA スクール構想において整備した一人 1 台端末により、中学校においても引き続き、授業の中で協働的な学びや個別最適な学びの一体化に向け、ICT の積極的な活用が望まれる。学習を進める中で、どの場面で、どのように使うことが指導目標を達成するために効果的なのかを検討しながら、学習における ICT の活用を進めることが大切だと考える。

○「学校の授業時間以外に普段 1 日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」の質問に対して、30 分から少ない～全くしないと回答した生徒が 71％いた。読書離れが懸念されるが、学校においては朝の読書や図書館指導員による本に親しむ環境づくりの取組など、これまでの取り組みを継続するとともに、新たな分野に対して興味・関心が広がる機会を作っていくことも大切だと考える。

○コロナ禍において、感染症対策の観点から行事や学習活動を通して友だちや他者との関わりに制限を設けざるを得ない状況が続いていた。しかし、各学校では限られた活動になったとしても、単にやらない・できないという選択をするのではなく、今できることや自分にできることについて、児童・生徒を中心に教職員・家庭・地域とともに考えて、学びの継続を行ってきた。様々な経験を通して考えることで、創意・工夫が生まれ、発見や新たな気づきを獲得することもできた今回の経験を大切に、カリキュラム・マネジメントに活かす。